

『宇宙人ポール』(Paul) は、2011 年のイギリス・アメリカの SF コメディ映画である。監督はグレッグ・モットーラ、脚本・出演はサイモン・ペッグとニック・フロスト、宇宙人ポールの声はセス・ローゲンである。

あらすじ

コミックオタクのイギリス人のグレアム・ウィリー (サイモン・ペッグ) とクライヴ・ゴリングス (ニック・フロスト) の二人は[コミコン・インターナショナルを訪れるためにキャンピングカーでアメリカ旅行をしていた。二人がネバダ州のエリア 51 付近を通過したところ、宇宙人のポール (声: セス・ローゲン) と出会う。

鑑賞前の期待値「鉄板コンビの鉄板コメディ」

この『宇宙人ポール』を手がけるのは、サイモン・ペッグ&ニック・フロストのコンビ。映画にちょっとでも詳しくれば「あの鉄板コンビね」と納得されるような 2 人だけに、自然と期待も高まるどころ。鉄板と呼ばれる笑いを堪能したい。

鑑賞後の感想「思っていたよりもイイ話。そして小ネタも沢山」

イギリス人のグレアム・ウィリー (サイモン・ペッグ) とクライヴ・ゴリングス (ニック・フロスト) は根っからのオタク。彼らは念願のコミコンを楽しみ、そのまま UFO スポットを巡る旅へ出発する。旅の最中、煽ってきた車が抜いた先でクラッシュ、その車を運転していたのはポールと名乗る宇宙人で…。

「(ポールを捕まえようとする) ビッグ・ガイ (シガニー・ウィーバー) から離れたい」というポールの言葉に、グレアムとクライヴも協力。しかし彼女は部下のゾイル捜査官 (ジェイソン・ベイトマン) に「証拠を残さず闇に葬れ」とだけ伝え、壮大な追いかけてこが始まる。途中、新たな仲間を引き連れながらも最終地点まで走り切るのだが、思っていた以上にコメディ要素よりイイ話要素が強かったのは驚いた。ラストのタネ明かしにも、だが。

「基地に匿われてからは、政府にも助言していた」というポール、なんと劇中でスピルバーグ (本人) に『E.T.』についてもアドバイスしたり「『X-ファイル』の) モルダー捜査官は俺の案」と豪語したり、セリフ含めて小ネタがとにかく多い。映画好きな人ほどニヤリとする、そんな一本だった。

『宇宙人ポール』で一番グッときたポイントは「盗聴合戦」

ポールを追いかけるゾイル捜査官の助っ人としてビッグ・ガイが投入する新人捜査官 2 人。ひょんなことからゾイルとのやり取りと盗聴し、暴走を始める。また、途中で登場し、仲間にも引き入れる女性・ルース (クリステン・ウィグ) の父親 (ジョン・キャロル・リンチ) も不気味なキャラクターで、同じくちゃっかりゾイルの無線を傍受し追いかけてこに参加してくる。このザル感がなんとも言えないユルさであり、結果、ストーリー展開もスムーズになっている。